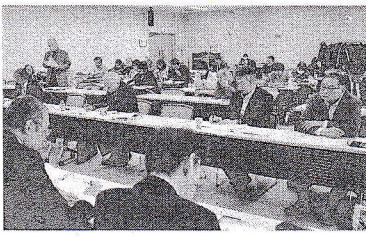


国保料引き下げ迫る

6団体道独自の努力要求

「高すぎる国民健康保険料(税)の大幅引き下げを、資格証発行の原則廃止を」と、道労連、道民医連、北商連、道社保協、札幌社

保協、道生連の6団体は24日、北海道の担当者らと2時間半にわたって交渉しました。



道側(手前)に国保料の引き下げを求め交渉する人たち。24日、札幌市

札幌市内で行われた交渉には、各団体から50人が参加。道保健福祉部の古郡修国保医療課長らが要請書の各項目に回答しました。

「道の試算では来年度、保険料が上がるというが、このままでは毎年引き上げは続く」と警鐘を鳴らした道生連の三浦誠一会長。

「保険料に責任を持つのは道。今年度、道費や各自治体での法定外繰り入れなどで引き下げとなったが、なぜ来年度も道費を投入して引き下げられないのか」と迫りました。

道側は「国からの交付金が増えないなか、このままでは医療費の

増加分は保険料にはね返ることになる。そのため国庫負担の増額を国に要望している」と言い訳しました。

参加者からは「保険料が上がらざるを得ないと聞かえる。福祉の立場からみて、皆保険制度を保障するためには引き上げないで安心して医療にかかれる制度を守るべきだ」との

声があがりました。日本共産党の北広島と石狩の市議が同席。山本博曰北広島市議は「国に働きかけるとい

うが、道がなんらかの手を打つべきだ。国に要請するだけでなく、道が努力すべきだ」と強く求めました。